名古屋工業大学男女共同参画推進センター ニューズレター

Vol.9
2017.07

CONTENTS

1. センター長あいさつ
2. TOPICS 平成 29 年度トップセミナーを開催しました
3. センターの取組事例
4.「女性が拓く工学の未来賞」について
5. COLUMN ワーク・ライフ・アンバランス

センター長 あいさつ

平成 26 年 12 月に発足した男女共同参画推進センターは、この春で 4 年目を迎えました。

これまでの 3 年間は、採択を受けた、科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の基本理念 に基づいて、本学独自の女性の研究環境整備や学内外の男女共同参画推進意識の醸成につとめてまいりました。3 カ年で培った自治体（愛知県・名古屋市・豊田市・小牧市など）との新たなネットワークや、ものづくり企業とも連携した女性技術者の活躍促進支援などのさまざまな成果は、女性比率が最も少ない理工系分野である工学の今後に、明るい未来の輪郭を描き始められたのではと考えています。今後の取組をどうぞ宜しくご支援下さい。

平成 29 年 4 月からのセンタースタッフ
（前列左増田副センター長　前列中央藤岡センター長　前列右石川副センター長）

TOPICS 平成 29 年度トップセミナーを開催しました

6 月 6 日（火）15：00 より 4 号館会議室 3 にて、平成 29 年度トップセミナーを開催しました。このセミナーは、本学が目指す大学像の参考に資する目的で男女共同参画推進センターが主催し、学長、役員、学科長等をはじめとした幹部教員と事務局幹部職員約 40 名に参加頂きました。

男女共同参画推進センター長の藤岡先生司会により開会宣言、鵜飼学長の開会あいさつ、続いて芝浦工業大学学長 村上雅人氏をお招きし「理工系大学におけるグローバル人材育成」～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～と題して、ご講演頂きました。

講演の冒頭では、名古屋工業大学と芝浦工業大学の比較と大学ランキングが提示され、大学ランキングを上げることそのものが目標ではないが、不断の大学改革の結果としてランクアップがあるとの説明がありました。また、少子化問題では、将来的に学力レベルの維持が困難になってくる危機感から、質保証の取組として、教育目標や育成すべき人材像と能力の明確化、目標とする能力育成のための教育手法の開発、PBL 型教育（課題解決型教育）、ルーブリック評価の導入等、先進的な取組内容について説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。続いて、男女共同参画推進について、理工系女性教員の増員、女性研究者の活躍に向けての環境整備、出産・育児・介護中の女性研究者の支援についてもふれ、効果のあった取組について説明がありました。

講演後は、国立・私立の垣根を越えた活発な質疑応答が行われ、参加者にとって刺激的で有意義な機会となりました。最後は、内匠理事のあいさつで閉会しました。

男女共同参画推進

センターの取組事例

Vol.1 育児支援について

補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」期間中は、特にライフイベント期にある女性研究者の研究環境を整備することが第一の目的でした。そのための取組のなかで、新しい制度を数多く制定し、教職員の方々は（規定要件を満たせば）希望する支援が受けられるようになりました。今号から、支援内容を少しずつ紹介させていただきます。

今回は、平成 27 年度に制定した「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」のなかでも本学が契約する「千種シッターサービス」の利用について紹介します。

本学の東門から 5 分くらい歩くと「千種シッターサービス」という事業所があります。本学は、平成 26 年 4 月に契約を結び、会員価格で教職員及び学生が各種サービスを利用できるようになりました。サービスの内容は、事業所内の育児ルームの利用とベビーシッターを派遣してもらい、子どもの世話をお願いするというものです。その際、会員価格での利用料が発生しますが、1 日の利用料の一部（700 円）を大学が負担するのが支援の内容です（パートタイマーの場合厚生年金の被保険者）。対象となる子どもの年齢は、乳幼児から小学 3 年生までの児童であり、場合によっては、小学 6 年生まで可能です。

また、シンポジウムやセミナー、学会等で子どもを短時間預けたい場合、11 号館 3 階の i－cafe 内にベビーベッド 2 台（1 台折りたたみ式）を併設した育児ルームを利用することも可能です。育児ルームに先に紹介した「千種シッターサービス」からベビーシッターを派遣してもらい、子どもの世話をお願いすることもできます。

利用者の声

妻は大学教員（大阪まで通勤）で休日も入試等、仕事が頻繁にあるため、千種シッターサービス「ルーム」を月数回（約 5-6 時間／日）利用しています。「ルーム」は本学から徒歩数分のマンションを子供の保育用アレンジにした衣食住完備の清潔な部屋です。大学からは 1 日 700 円、入試監督業務の際には全額補助をいただき、ワンオペ育児の男性教員の育児支援として大変重宝しています。少人数で運営されているため、子どもの個性に応じたアットホームな保育で、お食事も手づくり、おもちゃもたくさんあり、息子もいつも楽しみにしています。でんきの科学館、庄内緑地、金城ふ頭まで遠足に行くこともあり、詳細な保育レポートもいつも楽しく拝見しています。

磯部雅晴 助教
名古屋工業大学大学院 物理工学専攻 応用物理分野

「女性が拓く工学の未来賞」について

補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択後、新たに学長褒賞の１つとして制定しました。この賞は、優秀賞と奨励賞からなり、優れた研究業績を挙げ、かつ女性研究者の社会的プレゼンス向上に寄与することが期待される者を表彰することで、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図ることを目的としています。表彰の対象は、本学で研究活動に携わる全ての若手女性研究者（本学大学院に在籍する者を含む）です。全学への公募を受け、所属長、指導教員等が学長に対して候補者を推薦します。公募は、毎年７月から８月くらいに学内掲示板、及びセンターのホームページに詳細を掲載いたします。昨年度の受賞者であるオプトバイオテクノロジー研究センター博士研究員今野雅恵さんと（当時）先進セラミックス研究センター特任助教の髙井千加さんにコメントをいただきました。

受賞者の声
「受賞後の変化について」

日本学術振興会特別研究員
髙井 千加さん
名古屋工業大学先進セラミックス研究センタープロジェクト助教

このたびは、「第三回女性が拓く工学の未来賞優秀賞」を受賞させていただきありがとうございます。これまで地道に行ってきたことが評価されたということで大変うれしく思います。今年から日本学術振興会特別研究員として採用され、スケルトン粒子というユニークな構造を持つ粒子を使ったセンサーの研究を始めました。その中で、これまでとは異なる分野へ応用できる可能性を見出しました。現在は共同研究を開始するための基盤を整えているところです。今後も広い視野を持って研究を進めていきたいと思います。

博士研究員
今野 雅恵さん
大学院工学研究科　生命・応用化学専攻 / オプトバイオテクノロジー研究センター

研究業績の変化（向上）

海洋性藻類由来の微生物型ロドプシン様タンパク質について、分子機能と生理機能の両面から研究を進めています。このうち、私共が新しく発見した陽イオンチャネル GtCCR4 の分子機能について、現在指導している大学院生を筆頭著者、私を第二著者とした研究が本年 5 月に Biophysics and Physicobiology 誌に掲載されました。

私自身の気持ちと今後の研究展望

名工大ではこれまでの経験と全く異なる分野に飛び込むことになりましたので、最初に行った KR2 のイオン選択性に関する研究で受賞させていただき、大変励みになりました。今後は、微生物型ロドプシンの分子機能の解明を通じて光遺伝学ツールとしての可能性を拡げると共に、生物界に普遍的に存在するこのタンパク質の生体内での働きを明らかにしたいと考えています。

電気・機械工学専攻 加藤正史先生の

ワーク・ライフ・アンバランス

Work Life Unbalance

加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒
2003年 同大学大学院修了 博士（工学）
2003年 名古屋工業大学 助手
2008年～現在 名古屋工業大学 准教授
（その間リトアニア国ビリニュス大研究員、名古屋大学客員准教授 兼任）

第3回 保育料金を払えばよい？

ある SNS での議論

インターネット上の、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) にある投稿がありました。幼稚園で「延長保育は、仕事の時間以外の利用はご遠慮ください」と言われ、将来の仕事に関する勉強時間が確保できなくなったという悩みです。その投稿に対する反応は「保育料金を払っているのだから遠慮しなくてよい」もしくは「園の言うことはやはり聞くべきだ」という、相反する意見が出て盛り上がりました（もちろん他のコメントもありましたが、議論の簡単化のためこれらに絞ります）。さて、この悩みに対しては、どちら側の意見が正しいのでしょうか？

保育のコスト

正解を探す手段として、幾分下世話ですが、保育にかかるコストと、延長保育に支払う金額を比較してみましょう。『社会保障の「不都合な真実」』という書籍を見ると、おそらく本の趣旨として大げさに書いてあるとは思いますが、乳児一人の保育に対して月 50 万円以上のコストがかかると述べられています。幼児では負担が軽くなるので、幾分安いとは思いますが、月 2，30 万円はかかる計算になるでしょう。延長保育料金は園によって異なると思いますが、1 時間 1000 円あたりが相場でしょうか？仮に、1 日 8 時間、月 20 日として全てを延長保育料金で預かってもらうとすると、20 万円の支払いになります。なので、これらのコストと支払いを比較すると、よくてトントン、通常赤字になります。

ではなぜ、園は赤字で預かるのかというと、保育には社会保障の側面があり、自治体から補助金が降りる場合があるからです。元々保育というのは、子供の面倒を見ていると生活費が工面できない、という人たちが路頭に迷わないようにするための制度でした。ですので、社会が税金でサポートしているわけですが、潤沢に補助金が出るわけではありません。園が仕事時間以外の保育はご遠慮ください、と主張するのは筋違いではありません。

しかし、ここで再度疑問が発生します。仕事の時間とは何を指すのでしょうか？時間で労働対価が決まる仕事（サービス業や工場労働など）は比較的わかりやすいですが、知的作業で労働対価が決まる仕事では判断は困難になります。知的作業の場合、勉強や仕事仲間との会話すらも仕事の一部と言えなくもありません。準備時間や残業が必要な仕事もあります。それらの時間がないと仕事のレベルが保てないのですから、保育においても配慮してほしいという要望も理解できます。

正解などない

コストと、仕事の実体とを考えると、上記の議論には私はハッキリと曖昧な回答を答えます。正解はありません。相反する意見の一方を採用すると、赤字続きで園の運営が成り立たず、多くの保育園・幼稚園が廃業もしくは延長保育をやめることになります（もしくは自治体が破綻する）。もう一方を採用すると、（長い）仕事時間を明確に主張できる人だけが利用する保育施設ができあがることになります。このような極端な、対立を生みかねない状況は誰も望んでいないと思います。

保育の社会的意味は、過去の福祉を重視したものから、子育て世代の社会進出を重視したものに変化してきました。そのような変化は今後も起こるでしょう。だとするならば、過去のルール・慣習はおろか、現在のものすら変化していかざるを得ません。我々は現在もこれからも、社会としてどうあるべきかを常に考えて、幅の広いグレーゾーンを綱渡りしていくしかないのでしょう。

[1]『社会保障の「不都合な真実」』鈴木 亘　日本経済新聞出版社 (2010)

発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町　TEL | 052-735-5121
URL | http://www.nitech.ac.jp/gender/　E-MAIL | danjokyodo@adm.nitech.ac.jp

デザイン 大久保侑哉（社会工学専攻 藤岡研究室 修士２年）